

口永良部島の火山活動解説資料(平成20年7月)

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
火口内で噴気や火山ガスの噴出が見られ、火口内等では警戒が必要です。
1月25日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)をレベル1(平常)に引き下げました。その後、予
警報事項に変更はありません。

7月の活動概況

・噴気など表面現象の状況

新岳・^{しんだけ}古岳^{ふるだけ}の噴気に特段の変化はありません。

・地震、微動の発生状況(図2、図3)

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は121回(6月:96回)でした。今期間の震源は、これまでと同様、主に新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

火山性微動の月回数は3回(6月:1回)で少ない状態で経過しました。

・地殻変動(図4、図5)

GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は観測されませんでした。

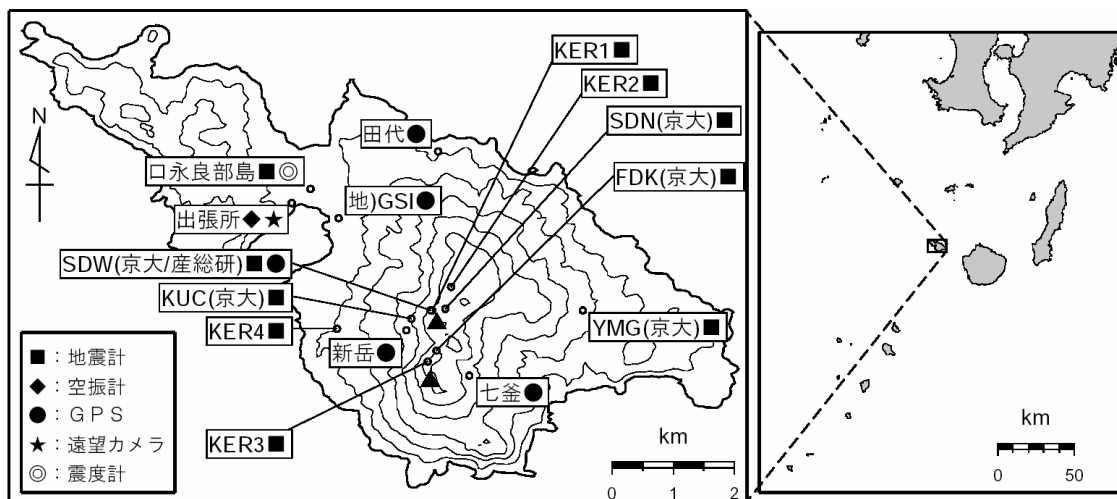


図1 口永良部島 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成20年8月分)は平成20年9月10日に発表予定です。

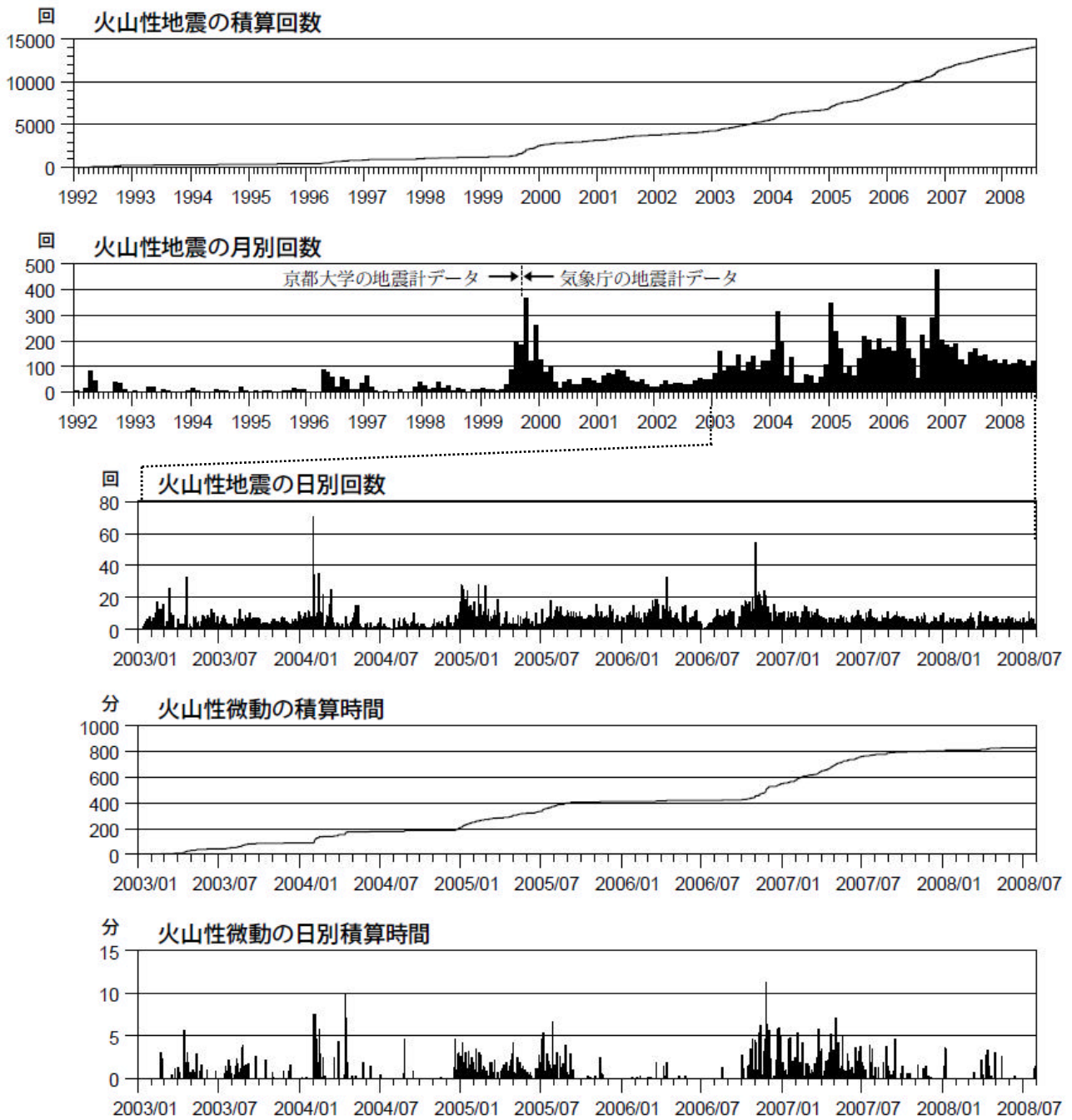


図2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月～2008年7月)
・火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過しています。

* 1992年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日間は京都大学のデータを使用しました。
* 2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計KER1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計KER1の機器障害のため、地震計KER3で回数を計数しました。

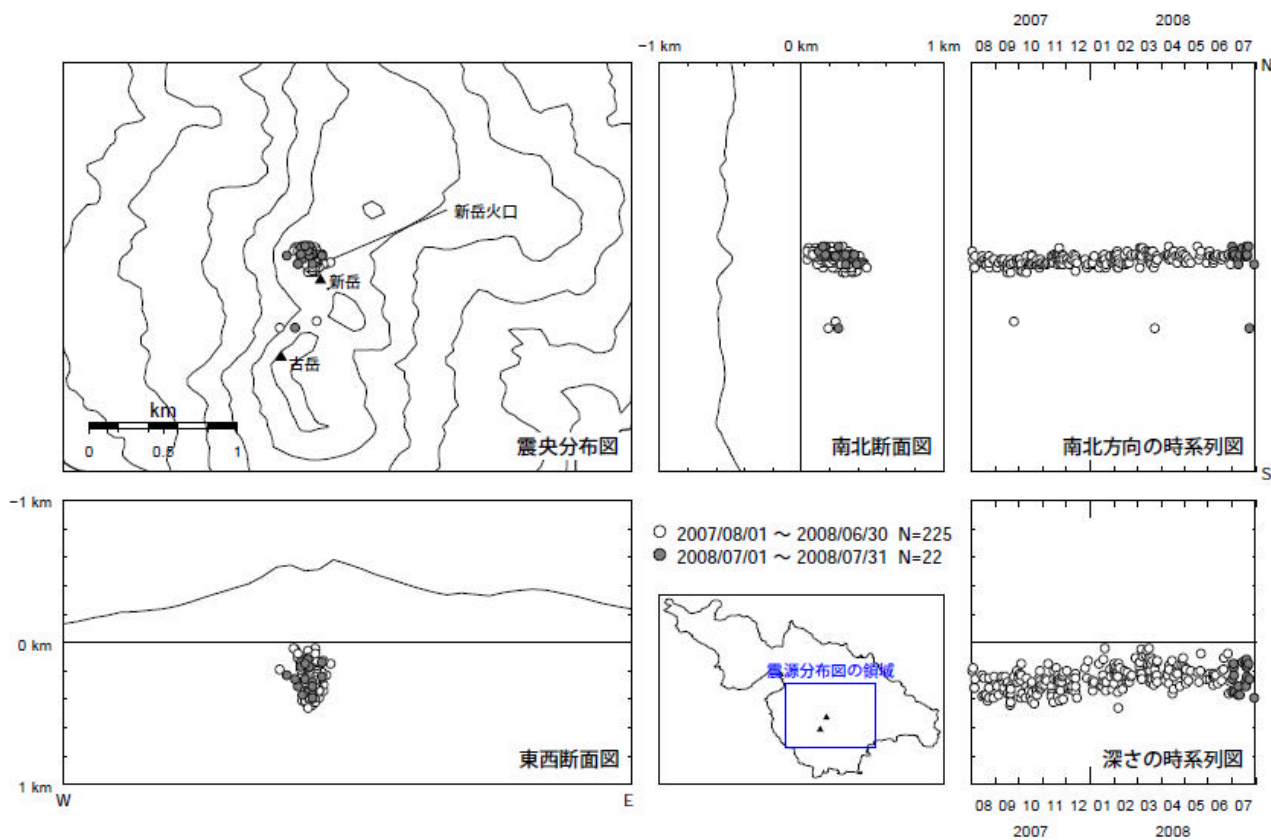


図3 口永良部島 震源分布図(2007年8月~2008年7月)
 今期間の震源は、これまでと同様、主に新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

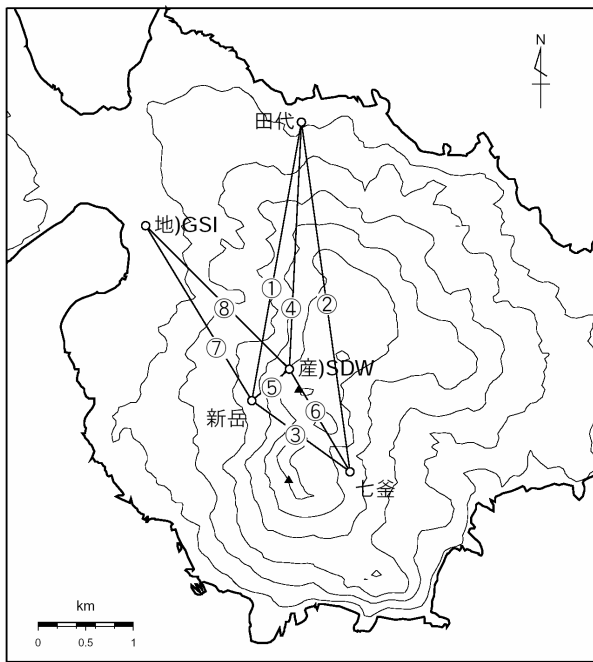


図4 口永良部島 GPS 連続観測基線図

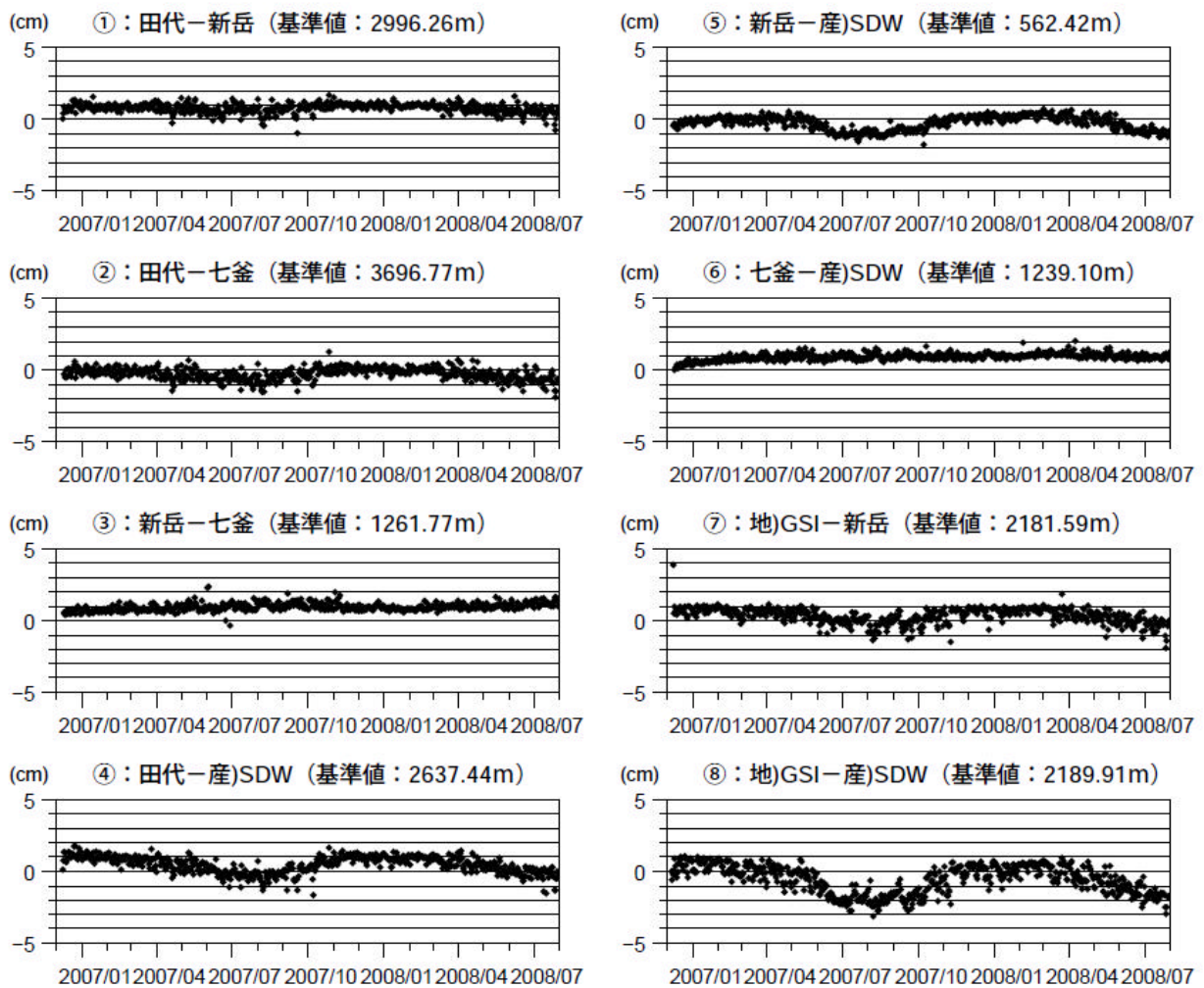


図5 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006年12月8日~2008年7月31日)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

この基線は図4の から に対応しています。